

平成25年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	53	都道府県・指定都市名	神奈川県横浜市
学校名 (児童数)	よこはましりついなりだいしょうがっこう 横浜市立稲荷台小学校 (315人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：横浜市西区藤棚町2-220

電話番号：045-231-1822

学校ホームページのURL：<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/inaridai/>

【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：2小学校
- 研究対象教科等：小学校社会
- 研究のキーワード：「学習力＝学力」「教材研究」「単元構成」「授業づくり」「学習指導要領」
- 研究成果のポイント

授業者が「学習指導要領」を注意深く読み、目標及び内容の分析をしっかりと行った。そのことにより教師の「教材研究」の視点がより明確になり、「単元構成」や「教材研究」、「授業づくり」がより有効なものとなり指導法の改善が具現化された。またそのことにより、子供の「学習力」が高まることにつながった。

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

子どもの学習力を高めるための単元づくり及び指導法の工夫・改善

(2) 研究主題設定の理由

本校テーマで言う「学習力」とは大きく2つ「学ぶ意欲」と「学び方の習得」を指す。「学ぶ意欲」とは単なる動機付けではなく、学習内容そのものに興味をもち、社会や文化に参画する充実感や喜びを指す。また、「学び方」とは単に問題解決的な学習の手法を身につけるだけでなく、仲間と協働し学習に参画することの必要性や、自らの学び方の個性を見つけ伸ばすことである。本校は、本市が実施する学力状況調査の通過率が、各学年4教科ともに市平均を下回っている。そこで、学習力向上は学力向上にもつながるという理念のもと、その2点を高めるために、目標および内容の分析、単元づくり、授業づくり、指導内容や方法の工夫・改善に焦点化した研究を進めていくこととした。

(3) 研究体制

交長・副交長	【研究推進委員会】 校長・副校長 ◎研究推進委員長 ○副推進委員長 ・生活科個別ブロック1 ・中学年ブロック1 ・高学年ブロック1	生活科・個別ブロック 社会科・中学年ブロック 社会科・高学年ブロック	○全員が年間2回の研究授業を行う。 ○すべての授業に指導講師を招請する。 ○授業ごとの目的に即した検証を行う。 ○研究授業以外の日常の取組も検証する。
		日常的な実践計画や指導案検討をブロックごとに進める。	

(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	4月	○研究の年間計画及び研究仮説の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての研究授業に講師を招聘し、ご指導を仰いだ。 ・11・12月の公開授業研究会には文科省の澤井教科調査官の参観・指導を戴いた。
	5月	○テーマ及び仮説に即した実践の取組(5～12月)	
	↓	・研究授業(のべ16回)における仮説の検証 ・仮説の検証と修正	
	11月	・修正した仮説に基づく授業実践	
	12月	○公開授業研究会開催を通じた他者からの評価	
1月	○研究成果の検証・まとめ		

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- 研究仮説と実際の子供の姿とを見据えて取り組んだこと
 - ・学習指導要領を熟読し目標および内容を分析することと、一方では子供の現状やその変容をふまえることが欠かせない。そのために、「研究仮説」と「学習力が育まれた子どもの姿」を設定した。
 - ・中学年・高学年ごとに仮説を掲げ、研究授業を行うたびに仮説の見直し、修正を行い、指導法や内容を振り返るようにした。
 - ・「学習力（学力）が育まれた子どもの姿」とはどのようなものなのかを挙げ、その姿を目指して授業を行い常に子供の姿や変容を基に、検証を行った。
- 目標や内容を分析したことがらを、指導計画に明記したこと
 - ・目標や内容を分析し、それを「子どもたちにとらえさせたい事実や認識」として指導計画に明文化した。さらにそのことが単元計画の中のどの過程と呼応するかを具体的に明示した。
 - ・仮説を実現するために11の具体的な手立てを設定し、各研究授業（16回）ではそれらが具体的にどこに位置付くかについて、指導計画に明記した。
- その時間の目あてを明確にし、それに対する個々の振り返りを重視したこと
 - ・教科を問わず、毎時間のめあてを子供が明確にもてるようにし、それについての振り返りを十分に確保し、見方・考え方の交流も可能な限り深めるようにした。
- 研究や各研究授業の成果と課題を職員がタイムリーに共有できるようにしたこと
 - ・研究の経過や内容を定期的に文書化し、一つひとつの授業研の成果と課題を全職員が共有できるように努めた。授業前日までに授業者の主張を聞き取り、それを「授業の見どころ」なる文書として全員に配布した。そのことにより、授業の視点を明確にし、また事後研の討議を焦点化できるようにした。
 - ・事後研の翌日、授業者が事後研の討議内容や講師からの指導助言についてまとめ、自らの振り返りも含めて「重点研だより」を作成し全員に配布した。
 - ・「授業の見どころ」、「重点研だより」の双方を作成していくことにより、各自が1時間の授業をどのように組み立て、子供たちの姿がどのように変容していったのかについて授業者、参観者が同じ視点で振り返ることができるようにした。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

授業者が「学習指導要領」を熟読し、目標や内容を分析することにより、その単元を通して子供に何を身につけさせるか、何を捉えさせるか、どんなことを考えさせるか、また、日常の生活や活動にどのように結びつけたらよいかが見えてきた。社会的事象を教材化するにあたっての視点を明確にし、教材研究や単元づくりを繰り返す日常実践が、教師の単元を構成する力の向上につながった。また、子供たちの学習力、特に仲間と協働して学習する楽しさや充実感を味わう姿や場面がより多く見られるようになってきた。

(2) 研究成果の意義等

社会科を通じた研究が、社会科以外の教科等でも単元づくりや指導法に改善が見られるようになったことである。子供たちにも、友達と意見を交流することの楽しさや自分で意思決定をしながら学習していくことの楽しさを感じている姿が、教科を問わず見られるようになってきた。学習力を高めるための手立てを講じてきたことが、1つの教科にとどまらず、他の教科等にわたっての学習力として高まってきたことの意義は極めて大きい。

(3) 指定期間終了後の取組

- ・本校の子供たちに必要な学習力を高めるための手立てを、今後も継続して行う。
- ・本年度の研究の成果を、学習状況調査（国および本市）で検証し生かす。